

〇〇地区防災計画（例）

令和〇〇年（20〇〇年）〇〇月

〇〇地区連合自主防災会

目 次（例）

1	基本方針	1
2	計画の名称、計画対象地域及び世帯数	1
	(1) 計画名称	1
	(2) 計画対象地域及び世帯数	1
3	地区の特性と予想される災害	1
	(1) 地区の特性	1
	(2) 予想される災害	2
4	活動内容	2
	(1) 平常時の取組み	2
	(2) 災害時の取組み	3
	(3) 災害時要援護者等への支援	3
5	地区の防災対策	5
	(1) 班編成	5
	(2) 班編成及び役割	6
	(3) 地区の連絡網	7
	(4) 防災関係施設	8
	(5) 避難所	8
	(6) 防災資機材等	9
	(7) 地域版防災マップ	1 1
	(8) 地区防災訓練の実施	1 1
	(9) 資機材、器具等の点検	1 2
	(10) 災害時要援護者への支援体制の整備	1 2
6	年間スケジュール	1 2

1 基本方針（地区防災の基本的な考え方）

ポイント:計画を作成する意義、目的、作成することによる効果など地区の防災の「主」となる内容を記載します。目標や合言葉などを入れるとわかりやすくなります。

（文例）

災害が発生した直後は、交通網の寸断・火災の同時多発的な発生などにより消防や警察などの防災機関が十分に対応できない可能性があります。そのような場合、力を発揮するのが「地区ぐるみの協力体制」です。

実際に、阪神・淡路大震災のときには、地区住民が自発的に救出・救助活動を行い、多くの人命を救うとともに、その後の復興にも大きな力を発揮しました。

また、東日本大震災のときのように避難所生活が長引く場合にも、地区住民が助け合って、様々な困難を乗り越えなければなりません。

私たちの地区では、「自分たちの地区は自分たちで守る」という心構えで、地区のみんなで助け合いながら、災害に強いまちづくりを進めます。

この取組を計画的に推進するため、地区住民を主体とした防災組織の行動規範としての「〇〇地区防災計画」を定め、平常時から備えの充実を図るとともに、災害時における「自助」、「共助」を着実に実行するため、この計画に基づく施策・事業などに取り組み、地区防災力を高めていきます。

2 計画の名称、計画対象地域及び世帯数（又は住民数）

（1）計画名称

〇〇地区防災計画

ポイント:サブタイトルも入れると親しみやすくなります。

（2）計画対象地域及び世帯数（又は住民数）

〇〇地区防災計画は次表の地域（単位自主防災会）を対象として定めます。

単位自主防災会名	世帯数（又は住民数）
〇〇単位自主防災会	〇〇世帯
〇〇単位自主防災会	〇〇世帯
〇〇単位自主防災会	〇〇世帯
合計	〇〇世帯

3 地区の特性と予想される災害

（1）地区の特性

ポイント:自然特性と社会特性に分けるとわかりやすくなります。

（例）

自然特性

- ・ 高低差の少ない平地に家屋等が多い地区である。
- ・ 山間部の住宅地であり、斜面地が多い地区である。（土砂災害警戒区域に位置する住宅が多い）
- ・ 〇〇川が流れており、過去に大雨で氾濫したことがある。
- ・ ため池の多い地域である。
- ・ 津波の浸水区域がある。

社会特性

- ・ 大規模に開発された地域である。
- ・ 住宅が密集している。
- ・ 区画整理されており、主要な道路が多く通っている。

(2) 予想される災害

ポイント:過去に起こった災害や市のホームページ、ハザードマップなどを参考にしよう。

（例）

① 地震

- ・ 山崎断層帯地震では震度〇〇が想定されている。（参照：地震調査研究推進本部又は兵庫県）
- ・ 南海トラフ地震では震度〇〇が想定されている。（参照：地震調査研究推進本部又は兵庫県）
- ・ 家屋の倒壊や火災のおそれがある。
- ・ 南海トラフ地震の場合、津波の可能性がある。（参照：ハザードマップ）
- ・ 液状化のおそれがある。（参照：ハザードマップ）

② 風水害

- ・ 〇〇川の堤防の決壊により最大で〇〇mの浸水のおそれがある。（浸水想定区域）（参照：ハザードマップ）
- ・ 〇〇地区で土砂崩れのおそれがある。（土砂災害警戒区域）（参照：ハザードマップ）
- ・ 高潮により最大〇〇mの浸水のおそれがある。（高潮浸水想定区域）（参照：ハザードマップ）

4 活動内容

(1) 平常時の取組

（文例）

いざというときに地区の力が発揮できるよう、地区のみんなで協力して防災活動に取り組みます。

① 防災知識の普及・啓発

防災対策では、地区住民の一人ひとりが防災に関心を持ち、準備することが重要です。地区住民への防災知識の普及や啓発活動を行います。

② 地区の安全点検

防災の基本は、自分たちの住むまちを知ることです。地区の危険な場所や防災上課題のある場所を確認し、改善のための働きかけなどを行います。

③ 防災資機材の整備及び管理

防災資機材は災害発生時に活躍します。地区での防災資機材を整備し、日頃の点検や使用方法を確認します。

④ 防災訓練

防災訓練は、災害発生時などいざというとき、あわてず的確に対応するための欠かせない活動です。地区住民に積極的な参加を呼びかけて訓練を行います。

(2) 災害時の取組

（文例）

災害時は、負傷者の発生や火災など様々な事態が発生する可能性があります。

公共機関とも連携しながら、みんなで力を合わせて被害の軽減に向けて活動します。

① 情報の収集・伝達

公共機関などから正しい情報を収集し、地区住民に伝達します。また、地区の被災状況や火災発生状況などを取りまとめ、防災機関へ報告します。

② 救出・救助活動

自分自身がケガをしないよう注意しながら、みんなで協力して負傷者や家屋の下敷きになった人の救出・救助活動を行います。

③ 初期消火

消防車が到着するまでの間、火災の延焼拡大を防ぐための初期消火活動を行います。

④ 応急救護活動

医師の手当てが受けられるまでの間、負傷者の応急手当をして救護所へ搬送します。

⑤ 避難誘導

地区住民を安全な避難場所などへ誘導します。

⑥ 給食・給水活動

地区で必要な物資を把握し、公共機関とも連携しながら、必要に応じて炊き出しなどの給食・給水活動を行います。

(3) 災害時要援護者等への支援

（例）

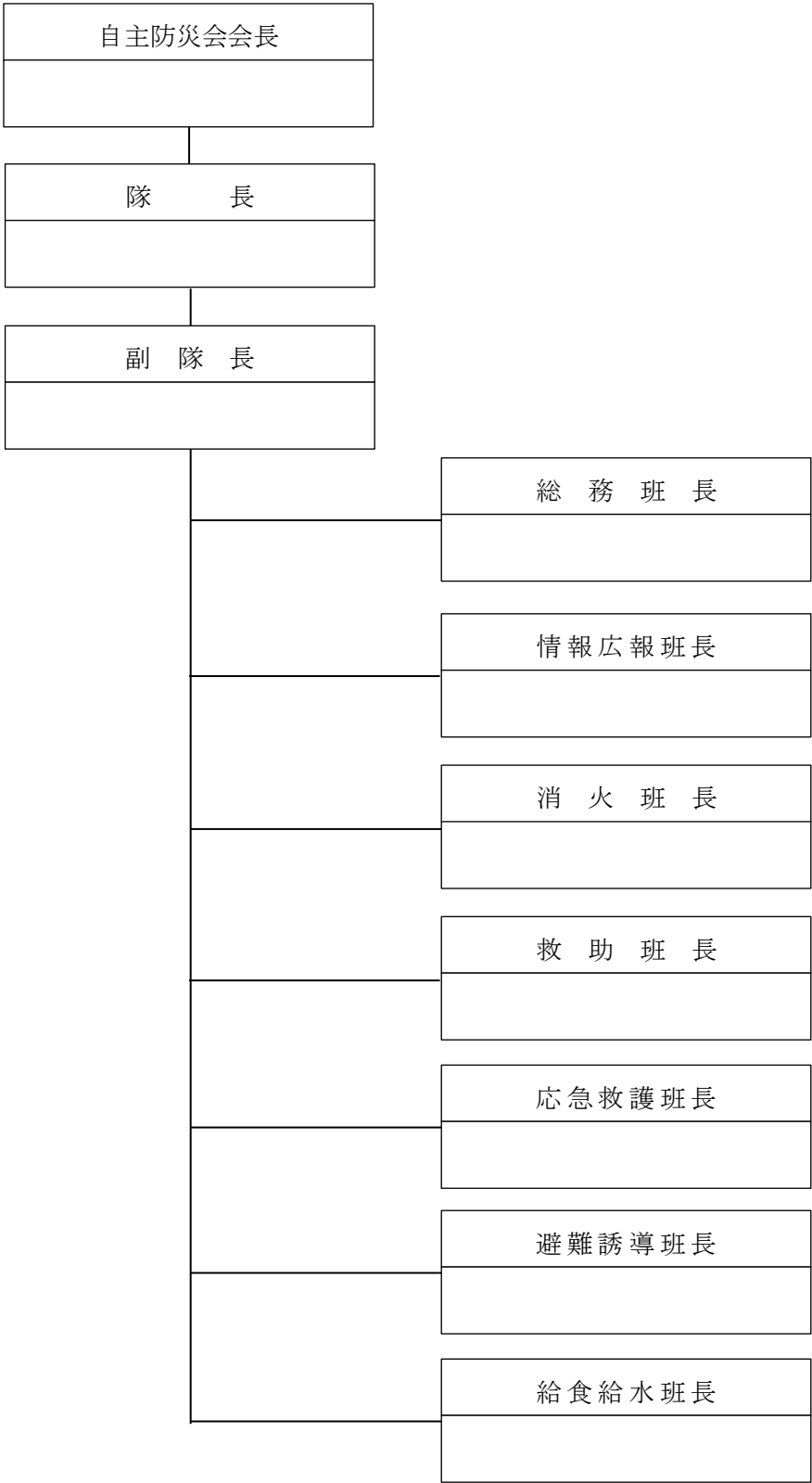
災害時に大きな被害を受けやすいのは、高齢者や障がい者、子どもなど、人の助けを必要とする人（災害時要援護者）です。こうした災害時要援護者を災害から守るため、みんなで協力しながら、支援を行っていきます。

この取組を着実に進めるため、要援護者台帳の整備及び個別避難計画（避難時に必要な支援などを明記した計画）等を定めることが重要です。

- ① 災害時要援護者の身になって、防災環境の点検・改善を行う。目や耳の不自由な人にも、警報や避難情報がきちんと伝えられるか、避難経路等に障害物や危険な場所はないかななどを点検し、改善に努めます。
- ② 避難するときは、しっかりと誘導する。隣近所の助け合いが重要です。一人の災害時要援護者に複数の避難支援者を決めておきます。
- ③ 困ったときこそ温かい気持ちで接する。非常時こそ、不安な状況に置かれている人にやさしく接する必要があります。困っている人や災害時要援護者には、思いやりの心を持って接します。
- ④ いざというときに円滑に支援ができるよう、日頃から積極的に災害時要援護者とのコミュニケーションを図ります。

5 地区の防災対策（具体的な対策）

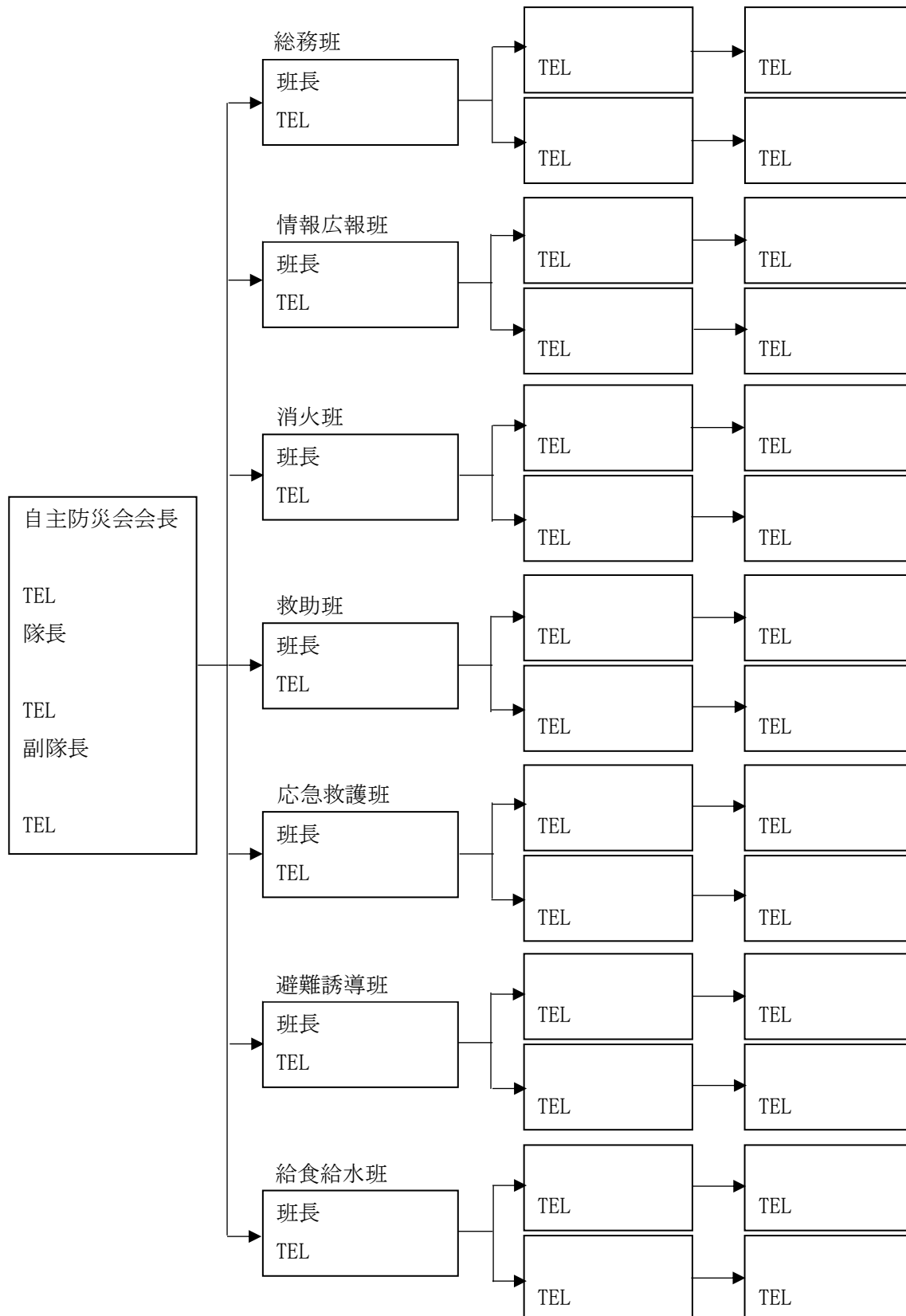
(1) 編成表（例）



(2) 班編成及び役割（例）

編成	役割	
	平常時	災害時
本部（自主防災会長・隊長・副隊長）	1 会の統率及び運営指導 2 防災訓練の実施 3 一時避難場所の選定	1 各班の調整、指導及び防災関係機関との連絡調整 2 避難所等の開設・運営の調整 3 （風水害時）自主避難場所としての一時避難場所の開設
総務班	1 全体調整 2 他機関との連絡調整 3 災害時要援護者の把握	1 全体調整 2 他機関との連絡調整 3 被害・避難状況の全体把握 （災害時要援護者の避難状況等） 4 災害時要援護者の避難の支援
情報広報班	1 防災知識の普及・啓発 2 情報伝達訓練の実施	1 情報の収集伝達、避難情報の伝達 2 被害情報を集約し、防災機関へ通報 3 出火防止の広報
消火班	1 資機材の点検・管理 2 防火の広報 3 初期消火訓練の実施	1 火災の警戒（地域パトロール） 2 初期消火活動
救助班	1 資機材の調達・管理 2 資機材の取扱いの習得 3 救出訓練の実施	1 負傷者の救出活動
応急救護班	1 負傷者の応急救護に必要な知識及び技術の習得 2 負傷者の搬送法の習得 3 応急処置訓練の実施	1 負傷者の応急救護 2 負傷者の搬送
避難誘導班	1 集合場所、避難経路、避難場所、標識等の巡回・点検 2 地域内の現状把握 3 避難訓練の実施	1 集合場所、避難経路、避難所の安全確認 2 人員点呼 3 避難の説得 4 住民の避難誘導 5 災害時要援護者の避難の支援（補佐）
給食給水班	1 器具の点検	1 給水活動 2 炊出し 3 水・食料の配分

(3) 地区の連絡網(例)



(4) 防災関係施設（例）

① 医療機関

名称	住所	連絡先	備考

② 福祉施設（災害時要援護者対応施設）

名称	住所	連絡先	備考

③ その他施設（消防署等）

名称	住所	連絡先	備考

(5) 避難所（例）

① 市指定避難所及び市指定緊急避難場所

避難所名	指定 避難所	指定緊急避難場所						
		洪水		土砂	高潮	地震	津波	大規模 火災
		L1	L2					
〇〇小学校	○	○	△	○	○	○	○	-
〇〇中学校	○	○	○	△校	○	○	○	-
〇〇公民館	○	×	×	×	○	○	○	-

※指定緊急避難場所の種別ごとの適否の凡例

「○」：適 「×」：不適 「△」：一部不適 「-」：対象外

洪水、高潮の凡例（「△」：1階が利用不可能となることがある）

土砂災害時の凡例（「△校」：校舎のみ使用可能）

② 一時避難場所（自主防災会指定）

一時避難場所 (風水害・地震)	所在地	収容 人員	災害種別毎の適否						リーダー名
			洪水		土砂	高潮	地震	津波	電話番号
()									—
()									—
()									—
()									—
()									—

(6) 防災資機材等（例）

① コミュニティ防災倉庫

資機材名	数量	
防災倉庫(コンテナ)	1 基	4,000 mm×2,400 mm×H2,400 mm 外壁アルミ 9.6 m ²
物品棚	2 台	
組立式リヤカー	1 台	アルミ製 ノーパンクタイヤ 積載重量 150kg
可搬式発電機	2 台	600VA/EX6、850VA/EF900FW
コードリール	3 個	定格 125AV-15A コード 30m以上 コンセントU×4
LED 投光器	4 セット	250W、300W 三脚付
梯子(脚立)	1 脚	鋼管製 二つ折り 長さ 3.67m 重量 8.7kg
チェーンソー	2 台	排気量 40cc 空冷2サイクル 重量 4.2kg(チャップス、ゴーグル各2セット含む)
油圧ジャッキ (分離式爪付)	2 台	単動分離式 S-MS-300 爪荷重 15t×143mm

油圧ジャッキ (補助ネジ付)	5 台	標準・低型油圧式 MS-3 荷重 3t
救助器具セット	2 セット	箱入り(バール・スコップ・ハンマー・ツルハシ・ジャッキ・ノコギリ・ロープ等)
三角巾	30 枚	折り畳み式(大) 105cm×105cm×150 cm
担架	2 台	四つ折り アルミパイプ製 2,030 mm×540 mm 重量 6.5kg
毛布	20 枚	難燃性 140cm×200cm 真空包装 10 枚×2 箱
組立式水槽	1 基	1,000 リットル 直径 1,350 mm×H700 mm
消火用バケツ	20 個	10 リットル ポリエチレン製
燃料携行缶	2 個	10 リットル 390 mm×277 mm×H179 mm 重量 1.9kg
スコップ	3 本	丸型 JIS 規格
土のう袋	500 枚	480 mm×620 mm ポリエチレン製 ※吸水土のう袋含む
ポリタンク	10 個	20 リットル 抗菌タイプ コック付 ポリエチレン製
警戒ロープ	1 巻	トラロープ 12 mm×200m 強度 1.44t
立入禁止用テープ	2 巻	警戒テープ(1 巻き 50m)
防水シート	20 枚	ブルーシート (中)3.6m×3.6m(10 枚) (大)5.4m×3.6m(10 枚)
仮設トイレ	1 台	組立式トイレ、 付属品一式(トイレトペーパー、処理袋等)
防災資機材セット (消防団用)	1 式	《旧市》 クリッパー2、バール5、片口ハンマー5、のこぎり5、スコップ 5、ツルハシ5、簡易担架2、収納ケース1 ※地域の実情に応じて、消防分団車庫に配置して いる地区もある。 《旧町:家島町、夢前町、安富町、香寺町》 ハンマー 1、ゴムボーイ 2、番線カッター 1、丸型スコップ 3、レ スキューアックス 2、デコバール 2、ツルハシ 1、掛矢 1、鳶クチ 2、非常用水バケツ 5、四つ折担架 1、拡声器 1、防水 ライト 1、トラロープ 1、ヘルメット 5、ケブラー手袋 5 等 収納ケース1 重量 約 35kg

軍手	120 双	10 ダース
サーキュレーター	1 台	20W、羽根サイズ 12cm
簡易トイレ	2 台	簡易組立便座、付属品一式(トイレットペーパー、処理袋等)
トイレットペーパー	1箱	100 巻入
ライト(手巻き式)	2 個	手巻き発電・車充電両用式(乾電池不要) LED 光度 60000mcd
トランジスターメガホン	1 個	サイレン付き(単 2 電池 6 個)
ホワイトボード	1 枚	横 90cm×縦 60cm 付属品(イレーザー・マーカー・磁石)

② 自主防災会が保有する防災資機材

保管場所	資機材名	保管数
〇〇倉庫 (〇〇町〇〇番地)	ヘルメット	〇〇個
	メガホン	〇〇個
△△倉庫 (△△公園)	発電機	〇〇台

(7) 地域版防災マップ（例）

ポイント:地区でまち歩きやワークショップを行い、地域の特性を知るとともに情報を共有しましょう。

※市のハザードマップ等や各地区において作成されている防災マップ（平成 24 年から平成 28 年に地区で作成。ただし、浸水想定区域等が見直されているので、ハザード情報については、最新のものを使用してください）を参考に地区で作成してください。

（掲載する情報の例）

- ・避難場所（一時避難場所を含む）
- ・避難経路
- ・消防署、警察署
- ・防災資機材倉庫（コミュニティ防災倉庫、自治会保有の倉庫）
- ・消火栓等
- ・危険な場所（狭い道、河川など）
- ・災害時要援護者世帯（個人情報に注意）

(8) 地区防災訓練の実施

（例）

災害発生時に地区住民が「地区防災計画」に沿って適切な行動ができるよう、市や消

防局等とも連携しながら、次の訓練を中心とした地区防災訓練を毎年実施します。

- ① 避難訓練（災害時要援護者の支援を含む）
- ② 情報収集・伝達訓練
- ③ 応急救護訓練
- ④ 給食・給水訓練
- ⑤ 啓発活動

訓練の実施後は、訓練結果を検証し、次回の訓練に反映するなど、定期的に活動内容を見直し、必要があれば「地区防災計画」の見直しを行います。

(9) 資機材、器具等の点検

（例）

活動体制の各班を中心に資機材、器具等の点検を定期的の実施します。

(10) 災害時要援護者への支援体制の整備

（例）

災害時要援護者協議会を中心に、災害時要援護者の支援体制を整備します。

6 年間スケジュール

毎年3月に次年度の年間スケジュールを作成します。

作成したスケジュールは回覧等により地区住民に周知します。

（年間スケジュールの例）

- | | |
|-----|---------------------------------|
| 4月 | 会員名簿・要援護者名簿等の更新、総会、年間活動計画の検討・作成 |
| 5月 | 防災まち歩きでの避難経路の確認・点検 |
| 7月 | 自主防災訓練の実施 |
| 9月 | 家具の固定や備蓄に関する会員アンケート |
| 10月 | 防災資機材の点検 |
| 1月 | 防災講習会・講演会の実施 |
| 3月 | 各班単位の検討・反省会、次年度活動の意見出し |